

第十一章 一九二〇年加州土地法制定運動ト日米交渉

第一節 排日臨時州會召集運動ト寫眞結婚婦人渡米禁止問題

第一、排日臨時州會召集運動

一、「フイーラン」一派ノ排日運動

一九一三年五月加州土地法成立後太平洋沿岸地方ニ於テハ排日問題小康ヲ得タルカ其後一九一五年桑港ニ巴奈馬運河開通記念博覽會開催セラルアリ加之偶々歐洲戰爭勃發シ米國ノ視聽歐洲ニ集中シ米國ノ聯合國側ニ參加スルヤ對日一般感情著シク改善シタルヲ以テ加州土地法緩和ノ望ヲ懷クモノサヘ生スルニ至レリ然ルニ一九一九年一月加州々會開會ノ間際ニ至リ加州選出米國議會上院議員「フイーラン」(Phelan)ハ突如トシテ排日運動ヲ開始シ茲ニ加州ニ於ケル排日論再燃スルニ至リ從來ノ形勢ヲ一變セシメ同州會ニ於テ二箇ノ排日法案ノ提出ヲ見タリ

歸化權ナキ外國人ノ借地權ヲ剝奪スル上院「インマン」案及契約成立當時當事者ノ一方カ加州内ニ在リ他ノ一方カ加州外ニアル婚姻ハ之ヲ無效トスル下院「ダンカン」案即チ之ナリ而シテ其中

後者ハ殆ト滿場一致ヲ以テ下院ヲ通過セルカ四月二日上院議事委員會ハ右兩案ニ反對ノ旨ヲ報告シ上院委員長ハ當時巴里會議開會中ナルニ顧ミ排日法案ヲ提出スルハ機宜ニ適セスト認ムト述ヘ討議ノ結果二法案審議ノ適否ニ關シ在巴里國務長官「ランシング」ニ電照スルコトナレルカ大統領「ウイルソン」ハ此際排日法案ヲ議スルノ不穩當ナルコトヲ回電シ來リタル爲兩案ハ提出者ノ撤回スル所トナレリ尤モ加州監督局ヲシテ外國人ノ借地事情ヲ調査セシメ其結果ヲ次期州會ニ報告セシムヘシトスル兩院共同決議案州會ヲ通過シ加州知事「ステイブンス」ハ之ニ基キ州監督局ヲシテ加州ニ於ケル歸化權ナキ外國人ノ國別人口所有地借地面積等ヲ調査セシムルコトナレリ

二、「インマン」一派ノ排日運動

四月二十四日州會閉會後ニ於テモ「フイーラン」一派ノ排日運動ハ依然トシテ繼續シ其後續發シタル朝鮮問題山東問題西比利亞問題ニ關聯シテ其勢益熾烈トナリ各種ノ團體頻リニ排日決議ヲ爲シタルカ九月二十九日州會上院議員「インマン」(J.M. Inman)ハ同志ト計リ「スタックトン」市ニ會合ヲ催シ

(一) 日本人ノ借地權ヲ奪フコト

(二) 寫眞結婚婦人ノ渡米ヲ禁止スルコト

(三) 紳士協約ヲ撤廢シ米國ノ立法手段ニヨリ日本移民ヲ禁止スルコト

(四) 日本人ニ對シ永久歸化權ヲ與ヘサルコト

(五) 米國ニ於ケル日本人ノ出生兒ニ市民權ヲ與ヘサルコト

ノ五項ヲ採用シ之カ實現ヲ目的トスル加州排日協會(Anti-Japanese Association of California)ヲ組織セリ

三、排日臨時州會召集決議

一九一九年十一月一日婦人參政權問題ノ爲加州臨時州會召集セラルルヤ排日議員ハ排日問題ヲ議スルカ爲更ニ翌一九二〇年一月ヲ期シ臨時州會ヲ開クヘシトノ決議案(通常州會ハ一九二一年一月開會ノ筈)ヲ提出シ該案ハ殆ト滿場一致ヲ以テ上下兩院ヲ通過セリ右決議ニ對シ州知事ハ(イ)平和條約ハ米國ノ關スル限り未タ確定ニ至ラス世界政局ハ尙機微ノ狀態ニアリ此際州民ノ輕舉ハ如何ナル難局ヲ誘發スルヤモ計ラレス(ロ)加州監督局ハ日本人等ノ所有地借地等ニ付調査中ニシテ加州ノ態度ハ右調査ノ結果ニ依リ決スヘキモノナリトノ理由ニヨリ反對ノ態度ヲ持シ臨時州會ヲ召集セサルヘシト宣言セリ然ルニ同知事ハ其政治的將來ニ顧ミ政界有力者ノ希望ヲ排斥ス

ル能ハサル立場ニアリタルヲ以テ排日論者ノ態度如何ニヨリテハ其立場ヲ豹變スルヤモ計リ難キ事態ニアリタルニ其後ノ桑港市參事會ヲ初メトシテ數多ノ團體續々トシテ排日法制定ノ爲臨時州會開會ノ必要ヲ決議シ多數ノ團體之ニ倣ヒ形勢容易ニ樂觀ヲ許ササルニ至レリ

第二、寫眞結婚婦人渡米禁止問題

一、排日ノ理由トシテノ寫眞結婚

然ルニ當時「フイーラン」、「インマン」等排日家ニ於テ特ニ日本人排撃ノ有力ナル論據ト爲セルモノハ寫眞結婚婦人ノ渡米問題ニシテ曩ニ「スタックトン」ニ於テ開催セラレタル排日協會創立會ニ於テ最モ論セラレタルモノモ亦本問題ナリシノミナラス米國人心ヲ著シク刺戟スルニ至レルナリ從テ寫眞婦人ノ渡米ニ取締ヲ加フルコトハ排日家ノ最有力ナル武器ヲ剝奪スルニ於テ緊要ナルカ如キ事態トナレリ依ツテ十月在桑港大田總領事ハ左記ノ理由ヲ具シ時局ノ趨勢ニ鑑ミ寫眞婦人ノ渡米禁止ノ斷行ヲ必要トスル旨政府ニ建言シ同月末桑港在米日本人會ニ於テモ右禁止ノ必要ヲ認ムル旨決議スル所アリタリ

(一) 元來寫眞渡米數ハ加州ニ於テハ一ケ年六百人内外ニシテ比較的少數ナルモ排日論者ハ結婚方法ノ異様ナルヲ奇貨トシ之ヲ惡用シテ衆愚ニ訴フル爲渡米數ノ大小論乃至日本法律上適法ナリ

トノ議論ノ如キハ容易ニ一般ノ了解スル所トナラス却ツテ我誠意ヲ疑フノ材料ト爲スノ傾向アリ

(二) 一方寫眞結婚ヲ許スノ結果未タ生活ノ基礎確實ナラサル若年者ノ妻帶ヲ獎勵シ又醜業ニ關シ非議セラルヘキ方法ニ利用セラルル傾向モ幾分存在シ之ヲ禁止スルニヨリ生スル風紀上ノ弊害ハ殆ト相殺スルニ足ルヘシ

(三) 此際斷然之ヲ禁止シ米國政府ニ進テ之ヲ宣言スルト共ニ迎妻ノ上再渡航スル者ニ對シ再入國ノ際取扱ヲ簡便ナラシムルコトヲ得セシムルニ於テハ一時迎妻希望者ニ困難ヲ與フルモ却ツテ彼等ニ奮勵貯蓄ノ美風ヲ教フル效果アルト共ニ排日論者ノ武器ヲ奪フコトナリ大局ニ於テ我ノ利スル所頗ル大ナリ

(四) 尤モ右禁止實行ノ曉ニハ歸國者ノ利益ニ鑑ミ再渡航證明ノ有効期間ヲ二年乃至三年ニ延長シ出來得ヘクシハ徵兵猶豫ノ特典ヲ與フルコト必要ナリ

二、埴原外務次官ト「モリス」大使ノ談話

十一月十八日埴原外務次官ハ米國大使「モリス」ニ對シ同官ノ私見トシテ加州ニ於ケル排日運動ノ形勢ハ誠ニ憂慮ニ堪ヘサルモノアリ萬一臨時議會ニシテ招集セラレンカ人心ノ興奮セル際如何ナ

ル苛酷ナル排日案ヲ通過スルヤモ知ルヘカラスシテ兩國國交上甚タ心痛ニ堪ヘス然レトモ臨時州會ニシテ召集セラレサルニ於テハ定期州會開會迄ノ間ニハ自然冷靜ニ問題ヲ審議シ適當ノ救濟策ヲ施スコトヲ得ヘク現ニ在米日本人會ハ自ラ進ンテ寫眞結婚ノ廢止ヲ宣言セルカ藉スニ日時ヲ以テセハ同宣言ノ趣旨ハ更ニ他ノ日本人會ニ於テモ採用シ帝國政府ニ於テモ亦之ニ有效ノ支持ヲ與フルノ途ヲ講シ得ヘク排日論者ノ攻撃スル對象ノ重要ナル一因ヲ除去スルニ難カラサルヘシト思考セラルルヲ以テ米國政府ニ於テモ此際右臨時州會ノ議ニ反對スル加州知事ノ立場ヲ支持セラルルコト望マシキ次第ナリト述ヘタルニ同大使ハ同感ノ意ヲ表示セリ

三 幣原大使ト國務長官「ランシング」ノ會見

次テ十一月二十日在米幣原大使國務長官「ランシング」ニ面會ノ際同長官ハ最近寫眞結婚婦人渡航問題ニ關シ諸方面ヨリ非難到來セルカ帝國政府ニ於テ加州排日運動ノ現狀ニ顧ミ之カ禁止ヲ斷行スルコトヲ得サルヘキヤト問ヒタルヲ以テ幣原大使ハ若シ帝國政府ニ於テ寫眞結婚ヲ禁止スルコトアリトセハ米國政府ニ於テ加州排日立法ヲ防遏スルコトヲ得ヘキヤト反問セルニ長官ハ確ニ其ノ見込アリト言明セリ

右會見ニ關聯シ幣原大使ハ次ノ趣旨ヲ以テ寫婚廢止ノ適切ナルコトヲ本省ニ稟申セリ

- (一) 寫眞結婚ハ當事者カ未タ一回ノ面識ナキニ拘ラス直ニ夫婦トシテ終生相互ニ拘束セラルル法律上及社會上ノ關係ヲ作ルモノニシテ本邦ニ於テモ古來ノ慣習ニ存セサル新制度ニ屬ス尤モ我現行法令上其適法ナルハ疑ヲ容レサルモ元來結婚ヲ重ンスル一般道德上ノ觀念ト兩立セス特ニ太平洋沿岸着港ノ際ニ於ケル現場ヲ目撃スルトキハ何人モ鑒覺セサルヲ得サルヘシ
- (二) 同制度ハ一方ニ於テ絶エス排日運動ノ有力ナル口實ノ一ヲ爲シ他ノ一方ニ於テ親日論者ヲシテ困難ナル地位ニ立タシメタリ蓋シ婦人ノ勢力偉大ナル米國ニ在リテハ婦人ニ對スル侮辱ヲ構成スルモノト見做サルル寫眞結婚制度ハ到底一般ノ認識ヲ得難キヲ覺悟セサルヘカラス
- (三) 從テ寫眞結婚ニ依ル婦人ノ米國渡航ハ帝國政府ニ於テ適當ノ時機及方法ヲ以テ斷然禁止セラるルノ必要アリト信スル處偶々今回國務長官トノ會談ニヨリ排日立法防遏ヲ米國ニ迫ルノ論據ヲ得ヘク其措置ヲ斷行スルニ有利ナル機會ヲ與ヘタルモノト認メタリ

(四) 尤モ加州排日運動ハ獨リ寫眞結婚ニ對スル反感ノ結果ニアラスシテ政治上經濟上複雑ナル原因ニ基クモノナルカ故ニ單ニ寫眞結婚ニ依ル渡航禁止ヲ爲スモ必スシモ排日立法ヲ防止スルニ足ルモノト樂觀スヘカラス國務長官ノ言明ニ基ク中央政府ノ努力モ事實上確實ナル成算アルヘキヤ疑ナキ能ハスト雖モ本件禁止ハ少クトモ排日運動ノ一ノ有力ナル口實ヲ排除スルト共ニ

米國政府ヲシテ排日運動防止ノ爲有效ナル手段ヲ取ルヘキ德義上ノ義務ヲ負ハシムルニ至ルヘシ

尙翌十一月二十一日出淵大使館參事官ト極東部長ト協議ノ上國務省ニ到達セル寫眞結婚ニ對スル非難ノ要點ヲ書付トシテ送付越セリ尤モ其内容ハ素ヨリ國務省之ヲ支持スル趣旨ニハアラサルナリ（附屬書第八十六號）

四、寫眞結婚ノ禁止

帝國政府ニ於テハ大局ノ利害ヲ考量シタル後竟ニ寫眞結婚禁止ノ斷行ニ決意シタルヲ以テ幣原大使政府ノ訓令ニ基キ一九一九年十二月八日國務長官ニ面會シ帝國政府カ愈々寫眞結婚ニ依ル婦人ノ米大陸渡航ヲ禁止スルコトニ決定シタルコトヲ述ヘ米國政府ニ於テ右決定ニ關スル帝國政府ノ立場ヲ諒察シ排日立法阻止ノ爲全力ヲ盡サレンコトヲ切望スル旨力說シタルニ對シ長官ハ排日立法ヲ阻止セントスルノ態度ハ米國政府ニ於テ固ヨリ帝國政府ニ讓ラサルカ故ニ其威力ノ及フ限リ最善ノ努力ヲ惜マサルヘキハ勿論ナリト言明シ尤モ中央政府ニ於テ必然其ノ目的ノ貫徹ヲ保障スヘキ法律上ノ權能ナキコトハ諒承アリ度シト附言セリ仍テ幣原大使ハ帝國政府ノ探ラントスル措置ニ付説明ヲ與ヘ訓電寫ヲ手交セリ（附屬書第八十七號）

同日ノ會談ニ於テ帝國政府ノ考案ニ付テハ國務長官ニ於テ關係當局ト協議ノ上挨拶アルコトナリ居リタルカ其後十二月十三日國務省第三次官「ロング」ハ國務長官ノ代理トシテ幣原大使ニ對シ帝國政府ノ決定ニ對シ深厚ナル満足ノ意ヲ表シ且米國政府ハ終始排日立法ノ阻止ヲ念トスルモノニシテ法律上權能ノ許ス限リ此目的ノ爲全力ヲ舉クルヲ辭セサル旨確言シ同次官ニ對スル幣原大使ノ求メニヨリ同日國務長官ヨリ右趣旨ヲ認メタル半公信ヲ同大使ニ送付越シタルヲ以テ直ニ寫眞廢止ニ關スル公式覺書ヲ幣原大使ヨリ國務長官ニ送付セリ（附屬書第八十八號）

尙元來排日立法阻止ト寫眞禁止トノ間ニハ暗黙機微ノ關係アルモ國務省當然ノ立場トシテハ兩國間ニ何等交換の關係アルモノト認メサルハ前記「ロング」次官カ幣原大使ニ説明セル所ニシテ又國務長官ノ半公信ニモ言及セリ又帝國政府ノ本件措置カ全然自發的處置タルコトニ付テモ幣原大使ハ國務長官及「ロング」次官ト十分了解ヲ得タリ

第二節 加州土地法ノ成立ト其前後ニ於ケル帝國政府ノ措置

第一、土地法ノ成立

一、「インヤン」ノ initiative measure ニヨル排日土地法制定運動